

「令和6年度地域貢献推進奨励金」活動報告

子ども食堂を通して地域の多様な人と
つながろうプロジェクト

松江キャンパス 宮下裕一

活動の目的:

出雲キャンパスと松江キャンパスの学生が松江市内にある「乃木子ども食堂」の取り組みに参加しているが、その活動を通して、学生から松江市内の他の子ども食堂に関わっている人たちともっとつながりたい、という思いが出されるようになった。このような経緯から、学生が市内の他の子ども食堂の関係者に直接働きかけを行い、交流することで、だれもが安心して暮らせるまちづくりの一翼を担っている地域の人たちの思いを共有し、学生が少しでも地域共生に向けての諸活動の実際を肌で感じられる機会を創出することを目的とするプロジェクトを行うこととした。

活動メンバー:

- ・出雲キャンパス、健康栄養学科の学生
- ・松江キャンパス、「みんなのいえ」サークルの学生
(保育教育学科、地域文化学科、保育学科)

活動内容:

1回目

5月19日(日)「子ども食堂マルシェ」に参加

山陰中央新報社主催の「子ども食堂マルシェ」に「乃木こども食堂」として参加した。当日はブース出店し、出雲キャンパスの学生が考えたメニュー(みかんキーマカレー)を提供した。

あわせて、2回目の交流会に向けて、他の参加団体の情報収集を行った。

2回目

11月30日(土)「子ども食堂交流会」の開催

協力が得られた子ども食堂のスタッフの人たちと、それぞれが普段子どもたちに提供しているメニューを一緒に調理し食事をする中で、それぞれの子ども食堂の実践内容等の報告や意見交換等を行った。

1回目(5月19日)

山陰中央新報社による「こども食堂応援プロジェクト」の一環としての「こども食堂応援マルシェ」に参加（松江市南殿町商店街にて）

「乃木こども食堂」のメニュー

夏バテ防止！みかんキーマカレー

出雲キャンパス、健康栄養学科の学生によるメニュー考案

- 【材料】(1食分)
- ・ カレー粉 (3g)
 - ・ 合いびき肉(70g)
 - ・ 玉ねぎ(50g)
 - ・ とまと(50g)
 - ・ なす(25g)
 - ・ にんじん(10g)
 - ・ パプリカ(15g)
 - ・ みかん(25g)
 - ・ 生姜(5g)
 - ・ サラダ油(3.5g)
 - ・ パセリ(0.1)

閉店時間前に
完売しました



当日の様子



他の出店ブースもまわり、ほかの子ども食堂の情報収集を行いました。

お客さんが多かったこともあり、他の出店ブースから応援を頼まれ、お手伝いに行った学生もいました。



2回目(11月30日)

子ども食堂交流会を実施しました

「子ども食堂交流会」開催にむけて学生が作成したチラシ

当日のながれ

09:30 集合、顔合わせ

10:00 グループに分かれて調理開始

12:00 昼食、各子ども食堂の活動紹介

14:00 片付け、解散



繋がろう!

子ども食堂交流会

2024年11月20日

ご参加のみなさま

島根県立大学みんなのいえサークル

繋がろう!子ども食堂交流会にご参加ありがとうございます。当日の流れなどについてご連絡させていただきます。

- 開催日: 11月30日(土)
- 時間: 9:30 集合、顔合わせ
 - ◇ 10:00 調理開始
 - ◇ 12:00 昼食、各子ども食堂・みんなのいえサークルの活動紹介(1団体 5~10分くらい)
 - ◇ 14:00 解散
- 場所: 島根県立大学松江キャンパス2号館1階 家庭科実習室
- 持ち物: 食材(調味料含む)、エプロン、三角巾、マスク、ハンカチ

・各子ども食堂 10人前で調理を予定しています。(調理メニューによって分量が変更になることもあると思います。申し訳ございませんがよろしくお願いたします。)

・当日は学生も一緒に調理を行います。簡単なレシピや活動紹介などで使用するチラシ等があれば当日持参していただくと嬉しいです。印刷は大学で行うことも可能です。また、USBにデータを入れて持ってきていただき、大学のパソコンやプロジェクターなどを利用して発表することも可能です。

・調理室にほとんどの物品がそろっていますのでお皿や箸なども含め持参いただく必要はありません。「○○はあるか」など不明な点がありましたら、お知らせください。

・27日(水)までに調理する内容(例:ごはん・ポテトサラダ・豚汁)や、可能であれば完成図・写真などをお願いいたします。

・ご都合により参加できなくなった場合はみんなのいえサークル代表

までご連絡ください。

以上

当日の様子

子ども食堂のスタッフの方と一緒にクッキング





子ども食堂に参加している中学生
生が考えたスイーツだそうです



報告・意見交換会の様子

活動を終えて

今回の企画は、「乃木子ども食堂(松江市)」の活動に参加する中で生まれた思いを実現する形で実施した。

学生の参加理由は、

- ・他の子ども食堂がどのような活動をしているのが気になった。
- ・さまざまな子ども食堂を知りたい。
- ・外国にルーツのある子どもや乳幼児が増えてきているので、他の子ども食堂での工夫等を知りたい。
- ・参加している子ども食堂では、子どもたちと遊んだりご飯を食べたりするが、作ってみるという体験をしたかった。
- ・料理を一緒に作って食べるという工程が楽しそうだと感じた。
- ・普段かかわりのない子ども食堂と交流し、そのうえでボランティア活動につなげたかった。

活動の成果

○参加学生の感想から

- ・より多くの子ども食堂のことを知りたいと改めて思った。
- ・子ども食堂はそれぞれの思いや考え、ねらいをもって活動されていると学んだ。
- ・子ども食堂がこんなにも身近にあることを初めて知り、さらに広めていく必要があると感じた。
- ・子ども食堂を本当に必要としている方に子ども食堂の存在を知らせることができているのかという話が印象に残っている。
- ・今の子ども食堂には、お金がないから食べに来るという子どもだけが来るのではなく、いろいろな子どもが食べに来るし、年齢関係なくご飯を食べに来るところもあるということを学んだ。
- ・どの子ども食堂も地域とのつながりを大切にしていた。
- ・自分たちで作って食べて、みんなでおいしいと思えるこの喜びを大切にしながら、また子ども食堂に参加したい。
- ・どのように子ども食堂の存在を届けるかを常に考える必要がある。

今後の展望

・まず、松江市内の子ども食堂の把握とそれぞれの取組の特徴を確認し、その中からこのプロジェクトへの参加を呼びかける子ども食堂をどこにするのか、学生同士で考え、行動するなど、今回の**企画と実施のほとんどを学生主体で行った。**

・「子ども食堂はどうあるべきか、誰一人取り残さないようにするためにできることはないかなど考えるきっかけとなった」という感想を持った学生がいたが、子ども食堂の現状とこれからのあり方を模索する機会にもなったように思う。

・松江市を含め島根県内の子ども食堂の増加率は全国的にも注目されているが、一方で運営を継続するための資金、場所、ボランティア等の不足に直面している団体も少なくない。「**子どもたちと地域の人がかかわれる機会としても子ども食堂は機能している**」と感じた学生の意見からもいえることだが、日々の活動の継続をどのように地域住民として支えていくのかという意識を学生一人一人が感じ、その思いを卒業後にそれぞれの場でどう繋げていくことができるかが重要だと思われる。